

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 26 年度(2014 年度)第 3 四半期)

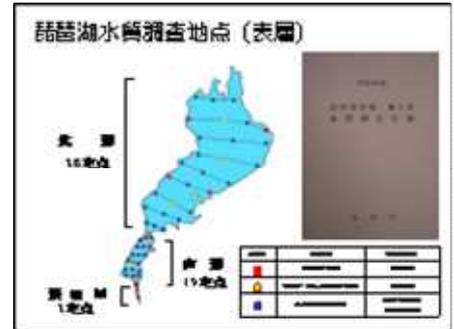
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 26 年度第 3 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値に、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

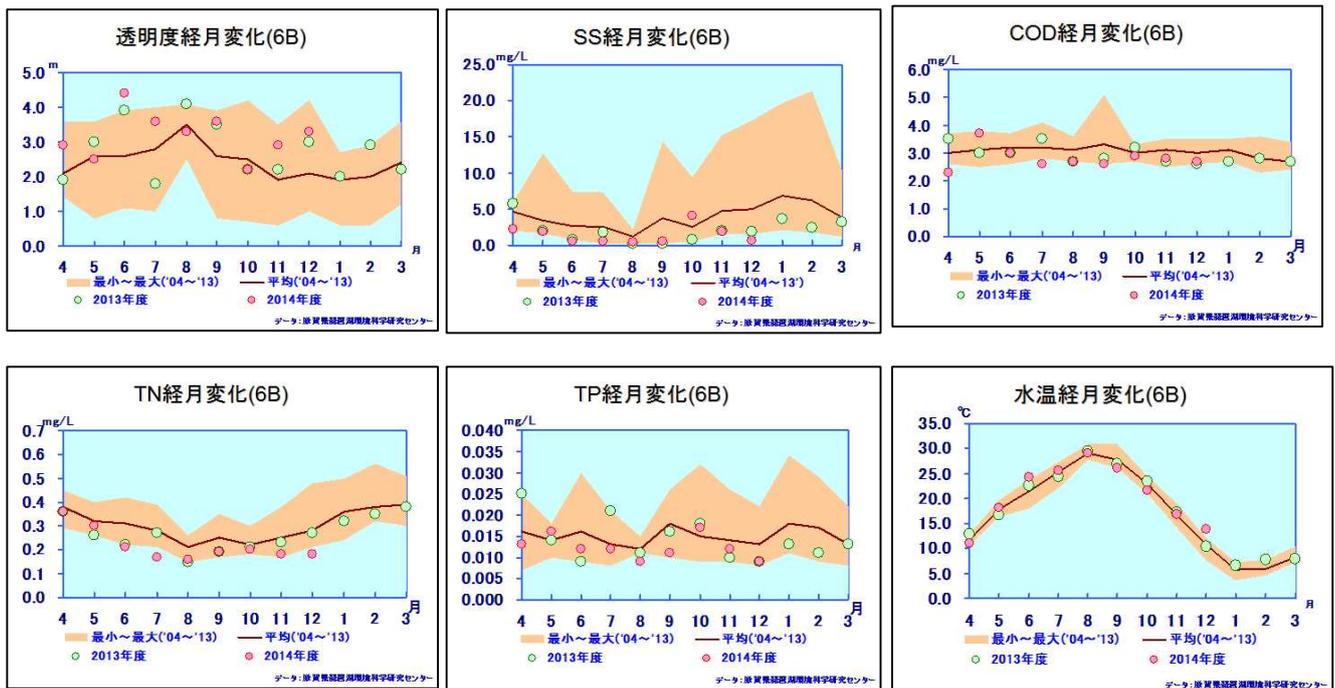
琵琶湖北湖の代表点として今津沖中央(17B)、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 26 年度第 3 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果(6B)

透明度については、10 月は過年度(過去 10 年間)平均値とほぼ同じ値でした。11、12 月は過年度平均値よりもやや高い値となりました。透明度に関連する SS を見てみると、透明度が上昇した 11、12 月は過年度平均値よりも低い値となっていることから、SS 濃度の低下が透明度の上昇を引き起こしたものと考えられました。

有機汚濁指標の化学的酸素要求量(COD)については、10 月は過年度とほぼ同じ値となりました。11、12 月は過年度より低い値となりました。富栄養化項目である全窒素(TN)は、10 月は過年度平均値並の値でした。11 月は過年度より低い値となり、12 月は 0.18mg/L と過年度最低値(0.21 mg/L)よりも低くなりました。

全りん(TP)は、10、11 月は過年度平均値並みの値でした。12 月は過年度平均値よりも低くなりました。



○今津沖中央調査結果(17B)

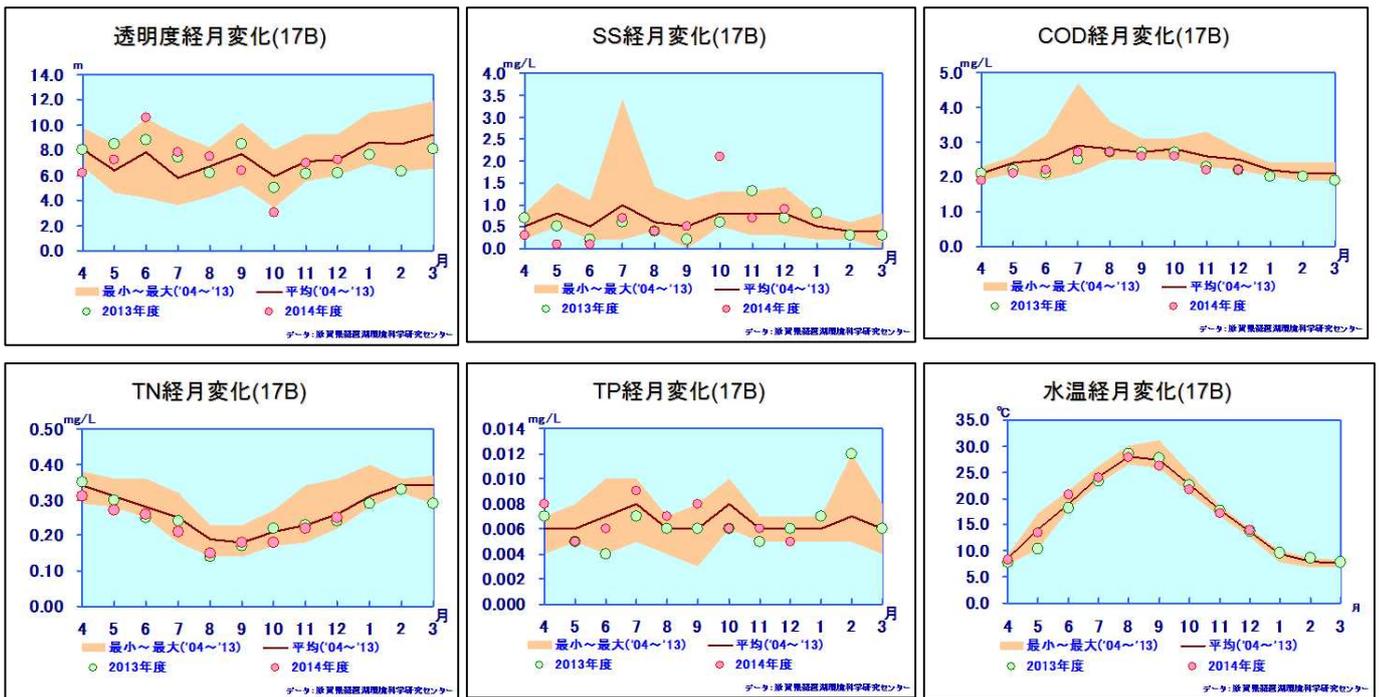
透明度については、10月は過年度最低値(3.4m)よりも低い3.0mとなりました。11、12月は過年度平均値並の値でした。透明度が低下した10月のSS濃度を見てみると、10月が2.1mg/Lと過年度最高値(1.3mg/L)を更新しました。これは10月5日に来襲した台風18号の影響によるものと考えられます。11、12月は過年度平均値並みの値でした。

CODについては、10月は過年度平均値並みの値でした。11月は過年度最低値(2.3mg/L)よりも低い2.2mg/L、12月も過年度最低値(2.2mg/L)と同値になり、全般的に濃度が低くなりました。

全窒素(TN)は、10、11、12月とも過年度平均値並みの値でした。

また、全りん(TP)は10月は過年度最低値と同値の0.008mg/Lとなりました。11月は過年度平均値並の値でした。12月は過年度最低値と同値の0.005mg/Lとなりました。

水温は10、11、12月とも過年度平均値並みの値でした。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34
 滋賀県琵琶湖環境科学センター
 環境監視部門 公共用水域担当
 TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803
 E-mail: dc51400@pref.shiga.lg.jp